こどもホスピス

佐藤　涼太

福屋研究室

設計主旨

ここ日本では、ホスピスという施設はあまり広く知れ渡っていないように感じる。

むしろ、ホスピスを知らないという人の方が多いかもしれない。

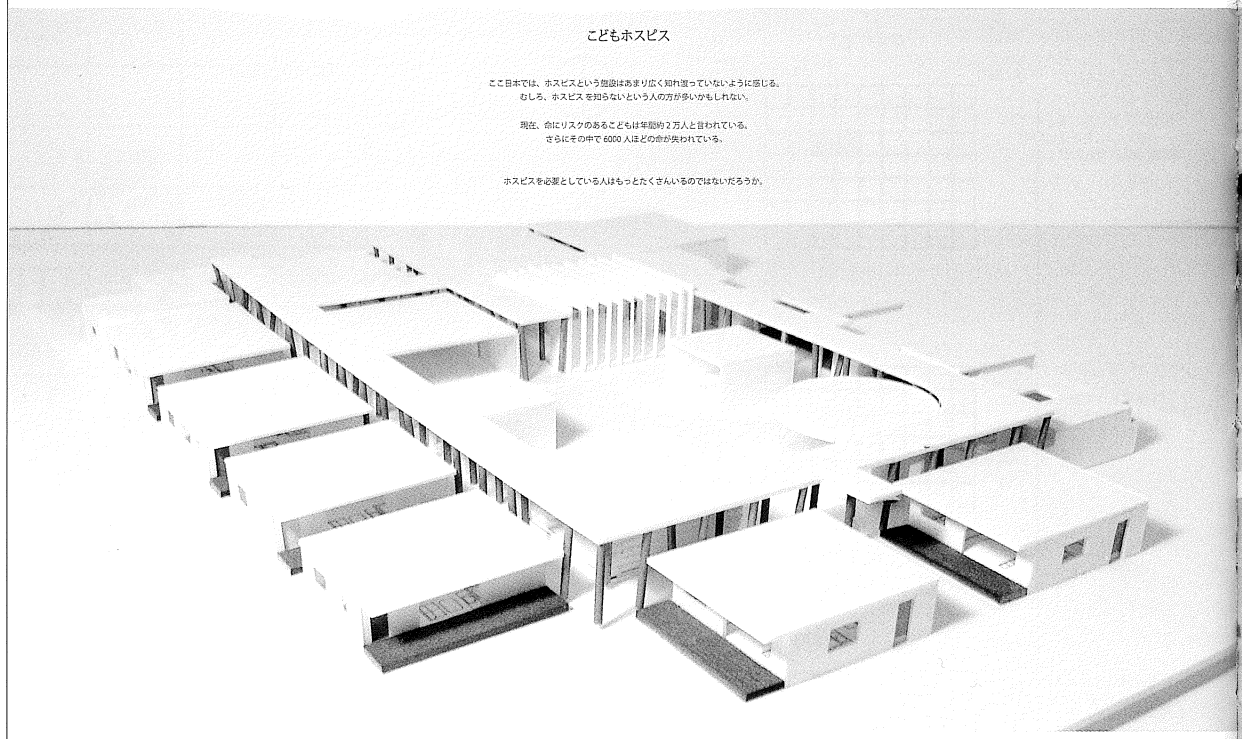
現在、命にリスクのあるこどもは年間約2万人といわれている。

さらにその中で約6000人ほどの命が毎年失われている。

ホスピスでは、死を早める事も遅らせることも無く、こども達を苦しみから解放する事はできない。

しかし、できる限り苦しみから緩和し残された人生の質を向上させることはできる。

そんなホスピスという場所を必要としている人は、もっとたくさんいるのではないだろうか。



Concept

終末期とは、死に至ることを回避するいかなる方法もなく、予想される余命が３か月以内程度の意味で表現されている。

終末期に至ったこどもは病院ではなく、自宅で過ごしたいとのことである。退院後は自宅で過ごし在宅ケアを受けている。しかし、全ての家庭が自宅に連れて帰り、十分に看護（見守りに従事する人の連続した睡眠時間は平均で 3.5 時間）してあげることは難しいのではないだろうか。
また、病院に残ることになったこどもは、治療を受けていたときとほとんど同じ環境の中で短い人生の最期を迎えている。さらに病室のわずか２坪のスペースで仕切りはカーテンのみの空間の簡易ベッドで家族は過ごしている。

様々な事情で自宅に帰る事ができない厳しい環境の中で過ごしてきたこども達とその家族が自宅のように過ごし、心身ともに十分なケアを受けることができる施設が必要なのではないだろうか。

Plan

本計画は、主に小児がんの終末期ケア (ターミナルケア) を目的とした施設である。

ここでは、入所するこどもだけでなくその家族も一緒に入所する。また、病室、各教室をを分棟型に配置している。それは、長らく過ごしてきた病院等の医療施設のような雰囲気を軽減させることが目的である。
これによりホスピスのケアではなく、在宅ケアのような感覚でサポートを受ける事が可能となる。

病室は、家族が十分に過ごすことができる設備を整えている。また、分棟型にすることにより、それぞれの家のように見えるようになっている。さらに、各病室には内側と外側に出入口をそれぞれ配置し、親族が 24 時間出入り自由となっている。
その他の各教室では、こども達が様々なことを学べるように計画している。

こどもホスピスについて

こどもホスピスの活動は１９８２年に英国オックスフォードで始まり、その後、カナダ、オーストラリア、ドイツ、アメリカをはじめ、多くの国々に影響を与えた。

そこでは、生命に限りのある、または生命を脅かす病気とともに暮らす、こどもたち、きょうだい、保護者、それぞれを主人公に、個別のニーズに合ったかかわりを行っている。

そして、医療・福祉・教育の現場で活躍するスペシャリストを中心に構成されたボランティアが、寄り添い、残された大切な時間をともに過ごす場所である。

今では世界中にこどもホスピスの活動が広がっているが、日本ではまだあまり広まっていないのが現実である。

イメージ写真：こども達がすごしている病室

イギリスのマーティンハウスの様子

日本のこどもの現状

日本の 15 歳までの人口は約 1650 万人。
そのうち難病を患っている子どもの数が 20 万人、その中で生命にリスクのある子どもの数は 2 万人と言われている。

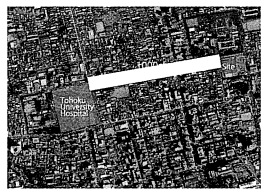
患者数は年々増加傾向にあり、毎年 6000 人近くの命が失われている。入院後、症状の緩和が見られると、在宅看護への移行が推奨されている。

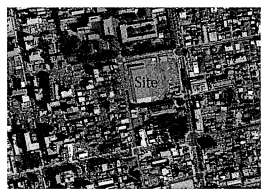
しかし、それは２４時間３６５日の看護生活が始まる事を意味している。

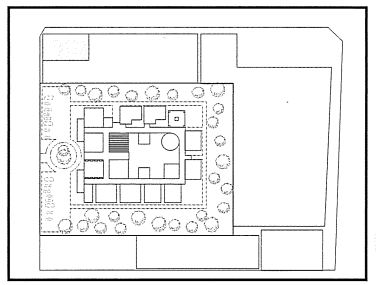
多くの場合、生命維持に欠かせない医療器具を必要としており、見守りが無ければ突発的な事象に対応できないと言う緊張した日常を送っているのが現状である。

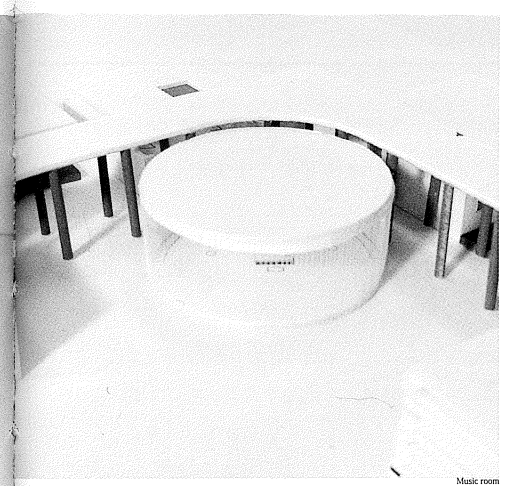
Site

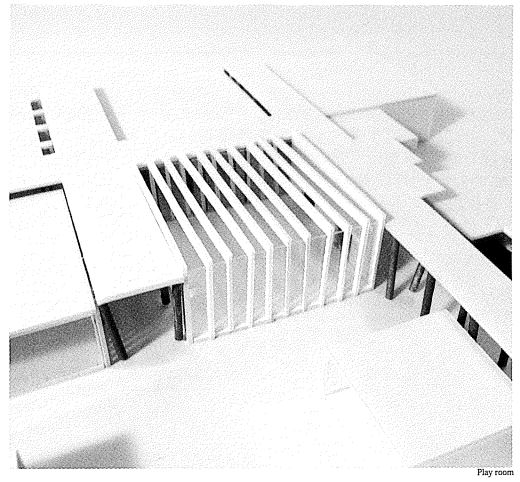
敷地は、宮城県仙台市青葉区上杉２丁目の某大型スーパーの跡地である。敷地の北側、東側に面する通りは車通りが多いが、それ以外は場所の割に車通りはそれほど多くなく穏やかである。近 隣には、仙台市営地下鉄「北四番町駅」があり、仙台市中心部へのアクセスが良好である。20 分ほどあれば歩いて行く事も可能である。コンビニやスーパー等も多数あり、非常に栄えた地域で私生活に困る事はない。また、小児がんの拠点病院である東北大学病院へは 1000m ほどで歩いてでも向うことのできる距離である。通院も非常に容易に行える場所である。

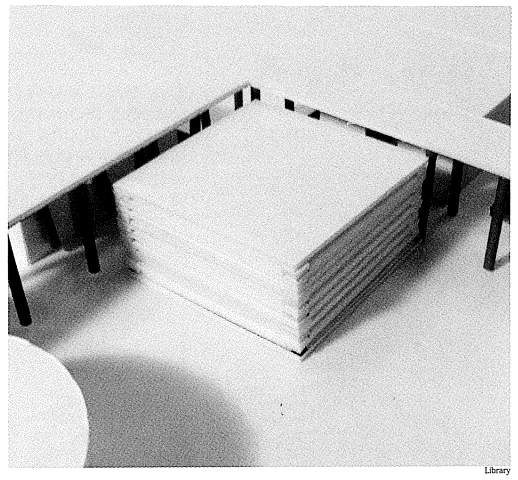


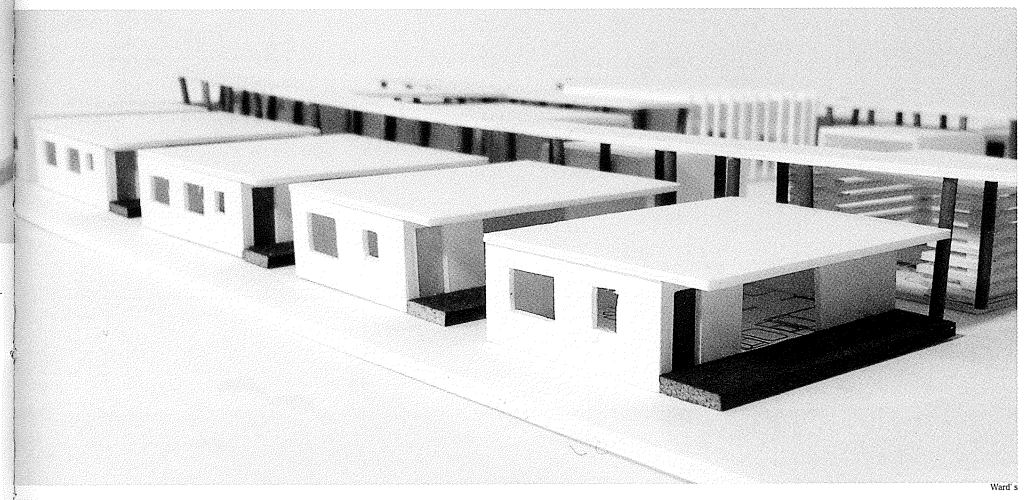


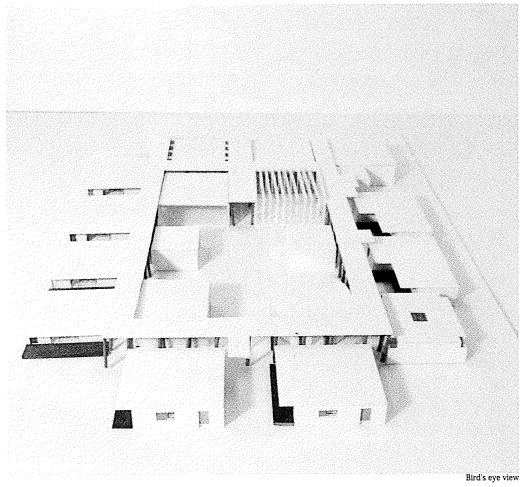

Site plan 1:6000


Music room

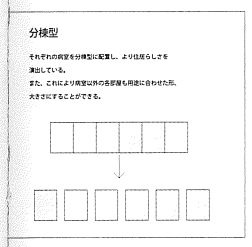

Play room

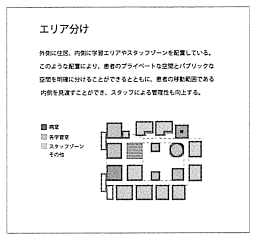

Library

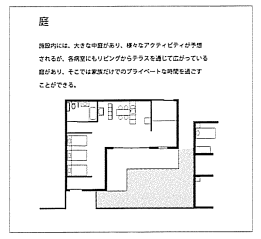

Ward ｓ

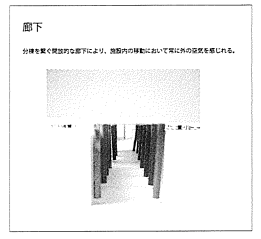

Bird's eye view

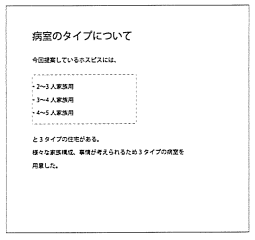
Design

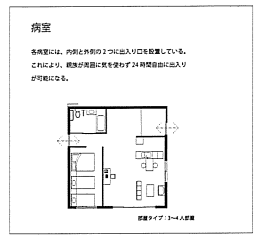




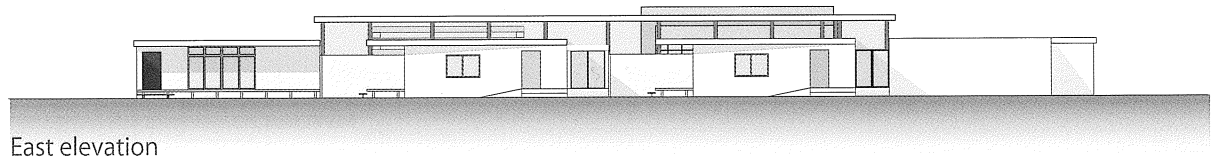


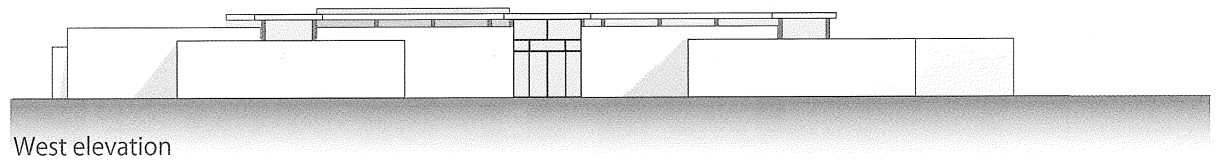


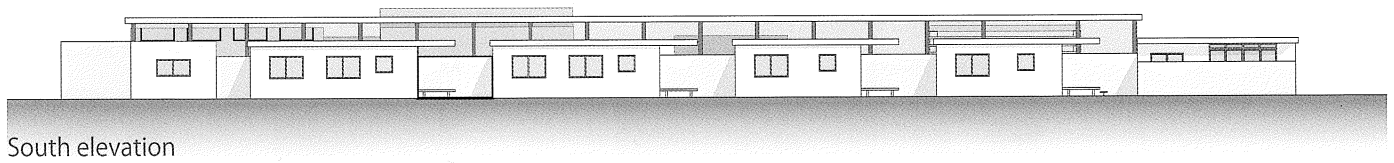


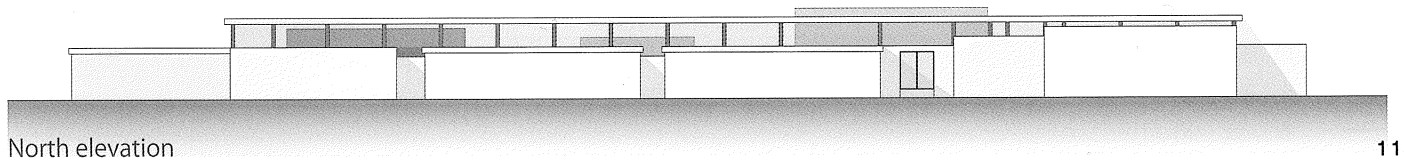


Elevation 1:400


East elevation


West elevation


South elevation


North elevation

11
2013年度
建築学科
卒業研修
報告集
東北工業大学